

「四季・植物」50 現証拠

学名 Geraniaceae Thunbergii Sieb. et Zucc.

フウロソウ科の多年草

下痢止めに服用すると効果がすぐ現れることから名が付いた。

げんのしょうこ 郷土資料から見た「現証拠」のあれこれ

古くから薬草として知られ、名前からもその効果がうかがえる。薬効の主成分はタンニンで、煎汁は下痢止めに効果があるが、便秘にも有効である。また湿疹やかぶれには煎汁を湿布するとよいといわれている。7～10月が花期で、葉が有毒なキンポウゲ科の植物と似ているため、間違えないよう花期に採取して使用する。

柏崎では夏土用に採取したものが一番効くといわれ、干し方は「緑色が失われないでポキッと折れるようになったものがよい」（「柏崎の植物」）という。植物に方言名があるのは、人の暮らしと密接な関係を持っていた証明であるといわれており、柏崎の方言名は「センニタスケ」「クチベニグサ」である。

参考資料

「日本大百科全書」	小学館発行	1994	「図説 花と樹の大事典」	植物文化研究会編	1996
「柏崎市史資料集 民俗篇」	柏崎市史編さん委員会編	1986	「草木花歳時記 夏」	朝日新聞社発行	1999
「柏崎の植物」	柏崎市教育委員会編	1998	「薬草図鑑」	伊沢凡人著	1999